

大会ルール

参加資格は、中四国地区に在する大学生で、大学院生は認めない。出場回数制限は設けない。

1. メンバー登録は、ランキング制を採用し選手交代の時は、補欠選手を正選手の下位(7将)の方から詰めていく方法で行う。但し、出場メンバーは登録配列順を守る。またメンバーの呼称は大將・副將・三將以下数字称とする。メンバー登録に誤りがあり、それが故意で悪質と判断された場合、対局前後にかかわらずそのチームは負けとみなされる。
2. メンバーが足りない場合は提出名簿順に従い、大將からつめていくこととする。
3. 先後は、上位校の大將が振り駒を行い以下交互になるようにする。
4. 順位は、勝ち点制に従い、勝ち点が等しい時は、勝ち数によりこれを決定する。どちらも等しい時は前期の順位に従う。
5. 着手は、動かされる駒が手より離れ、置かれたときとする。但し、駒を盤の上に落とすなどの事故はその範囲ではない。
6. 禁手などのルール違反の裁定は、その現場において両者の合議もしくは理事長が常任理事の立会いによって行い、それ以後の抗議は受け付けない。
7. 紛争が起きた時は、理事長、会計、書記、主幹校代表の4名による合議制でこれを裁決する。但し、前述の4名のうち紛争当事者と同一校に在学している者がいる場合は、その者以外でこれを裁決する。
8. 禁手を指した者は、ただちに投了しなければならない。
9. 禁手を指した者がそれに気づかない場合は、対戦者及び立会人、又は観戦者がそれを示すことができる。但し、対戦者及び立会人、観戦者のいずれもがそれに気づかなかつた場合は、その禁手が指されたことが試合中に明らかの場合を除いて禁手は無効になる。
Ex. 二歩なども観戦者を含む周囲が指摘できる。

10. 千日手は指し直しをする(先後交代)。但し、王手連続の千日手は、王手をかけている方が指し手を変えなければならない。
11. 千日手指し直し局も千日手となった場合、半勝半負とする。但し、その場合でもトーナメント戦などで勝敗を決定しなければ棋戦の差し障りのある時は、振り駒により勝敗を決定する。

千日手について

a. 個人戦の場合

持ち時間をそのままにして指し直しをする(先後交代)。但し、王手の連続の千日手は、王手をかけているほうが指し手を変えなければならない。

b. 団体戦の場合

対局開始後1時間が経過していない場合は持ち時間をそのままにして、また対局開始後1時間が経過している場合は持ち時間を両者初手より1手40秒にして指し直しをする(先後交代)。

但し、王手の連続の千日手は、王手をかけているほうが指し手を変えなければならない。

持将棋について(24枚ルール)

理事長又は、常任理事が大駒5枚、小駒1枚として数え、王以外の駒数が24枚に満たないものを負けとする。双方とも24枚以上持っている場合は半勝半負とする。但し、トーナメント戦などで勝敗を決定しなければ棋戦の進行にさしさわりのある場合駒数の多い方を勝ちとする。その場合でも、駒数が全く等しい時は振り駒により勝敗を決定する。

遅刻について

遅刻により参加資格を失う場合がある。

個人戦: 遅刻した時間の分だけ遅刻者の持ち時間を削除する。対局者はチェスクロックを押して待つこととする。

団体戦: 対局者はチェスクロックを押し5分間待ち、遅刻した時間の分だけ遅刻者の持ち時間を削除する。それ以降は遅刻した時間の2倍を持ち時間から削除する。

以上の規定のほかは、日本将棋連盟の対局規約に準ずる。

個人戦

1. 参加資格は、中四国地区に在する大学生で、大学院生は認めない。出場回数制限は設けない。但し、本連盟大学以外の者に対しては、指定の参加費によってその参加は認められる。その場合、全日本大学生将棋連盟主催の棋戦参加資格はない。(但し、そのような者が日本大学生将棋連盟主催の棋戦への出場資格を得た場合、全日本に対して指定の加盟費を払えばその参加を認められる。)
2. 三位決定戦は原則として行うこととする。但し、両対局者に正当な理由があり、又、行うことが必要ないと判断された場合にのみ、行わなくても良い。

女流戦

1. 試合方法は、5回戦のスイス式で行う。但し、参加者数が6名に満たない場合は総当りリーグ戦で行う。
2. 対局開始時間は優先度を個人戦、女流戦、若葉杯の順として可能な限り早めに開始する。